

【重点項目】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

【提言・提案項目】 制度・予算

- 1 東海環状自動車道大安IC～北勢IC（仮）間について、公表された供用見込みより一日も早い開通を図るよう、整備をさらに加速すること。
北勢IC（仮）～岐阜県境間の開通見通しの公表、早期全線開通に向け整備を推進すること。
中京圏の高速道路ネットワークを賢く使うとともに、必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保のため、早期に中京圏の道路料金の見直しを進めること。
- 2 令和3（2021）年開催「三重とこわか国体・とこわか大会」に向け、「熊野尾鷲道路（Ⅱ期）」の開通見通しを早期公表すること。
「新宮紀宝道路」、「熊野道路」および「紀宝熊野道路」の整備を推進すること。
供用中の「紀勢自動車道」における暫定2車線区間の4車線化を推進すること。
- 3 鈴鹿四日市道路を早期に新規事業化すること。
国道23号中勢バイパスの4工区開通見通しの早期公表、既開通区間の渋滞解消に向けた4車線化や立体化を推進すること。
- 4 国道1号北勢バイパスの国道477号バイパスまでの開通見通しの早期公表、全線開通に向けた整備を推進すること。
国道1号桑名東部拡幅（伊勢大橋架替）の整備を推進すること。
国道42号松阪多気バイパスの渋滞区間の立体交差化に早期工事着手すること。
- 5 鈴鹿亀山道路の都市計画手続きに向けて支援すること。
名神名阪連絡道路について、国による調査を推進し、早期実現を図ること。
鈴鹿亀山道路および名神名阪連絡道路を「重要物流道路」として指定すること。
- 6 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、木曾三川および鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川・勢田川の直轄河川改修事業を確実に実施すること。
- 7 川上ダムについては、令和4（2022）年度の事業完了に向け、必要な予算を確保するとともに、一日も早く完成すること。
「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、名張川および木津川・服部川・柘植川の直轄河川改修事業を確実に実施すること。
- 8 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、三重県内における木津川水系直轄砂防事業をより一層推進すること。
- 9 七里御浜海岸における侵食対策を直轄事業化すること。
「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、熊野川直轄河川改修事業を確実に実施すること。
熊野川の総合的な治水対策協議会でとりまとめた取組を確実に実施するため、国によるマネジメントを強化すること。
- 10 令和3（2021）年開催「三重とこわか国体」会場周辺を含む津松阪港直轄海岸事業を強力に推進すること。
- 11 国営木曾三川公園（桑名七里の渡し公園）を早期に全面開園すること。

《現状・課題等》

1 平成 31 (2019) 年 3 月 17 日に東海環状自動車道の東員ICから大安IC間と新名神高速道路の県内全区間が開通し、物流拠点へのアクセス性や定時性の向上、広域観光の拡大、災害対応力の強化など県内の道路ネットワークは大幅に改善されました。また、東海環状自動車道の大安IC～北勢IC（仮称）間については、令和 6 (2024) 年度に開通する予定であり、沿線地域では開通を見越した設備投資が進められています。北勢地域のさらなる産業振興や観光振興、県民の安全・安心の確保に向け、東海環状自動車道(西回りルート)のさらなる整備加速や開通見通しの早期公表、一日も早い全線開通が必要です。

中京圏の高速道路ネットワークは、整備時期や管理者によって料金が異なる上、東海環状自動車道が整備されていないため、交通量に偏りがあり、慢性的な渋滞が発生しています。中京圏の高速道路ネットワークを賢く使うために、東海環状自動車道の整備の財源確保につながる料金体系の見直しが必要です。

2 東紀州地域は、国土幹線軸から離れているという地理的条件から、交通体系の整備が遅れており、発生が危惧されている南海トラフ地震への備えとして、高規格幹線道路の整備による交通ネットワークの強化が必要です。また、国道 42 号は台風や豪雨等により度々通行止めが発生することから、国土強靱化に向けた国道 42 号のダブルネットワーク化が求められています。

一方、当地域は優れた観光資源や農林水産資源の活用による地域振興、企業立地による雇用の創出など地方創生のポテンシャルの高い地域であることから、道路ネットワークの強化によりさらなる地域の発展が期待されています。

3 北勢・中勢地域では、現道の国道 23 号の渋滞が著しく、社会経済活動において大きな損失となっています。渋滞緩和や企業活動の生産性の向上につながる道路ネットワークを強化するには、中勢バイパス、鈴鹿四日市道路の一体整備が必要です。

4 国道 1 号北勢バイパスの沿線地域では、これまでの部分開通により、沿線工場の従業員数が 10 年間で 1.5 倍増加したり、沿線の人口が 1 万 5 千人増加するなど、社会資本整備によるストック効果が発現しています。北勢地域のさらなる活性化には、残る区間の全線開通が必要です。

国道 1 号伊勢大橋周辺では、著しい渋滞が発生しています。また、伊勢大橋は、昭和 9 (1934) 年に完成してから長年にわたり激しい道路交通を支え続けてきた結果、著しく老朽化していることに加え、耐荷力不足により 20t 超過車両(特殊車両)が通行できず、迂回している状況です。伊勢大橋の架替で右折レーンを設置することにより、渋滞を解消するとともに、迂回している生産拠点間の輸送時間を短縮し、物流の効率化を図るためにもその整備推進が必要です。

松阪多気バイパスについては、平成 30 (2018) 年 3 月に暫定 2 車線で全線開通により交通量が増加しています。県道鳥羽松阪線との朝田南交差点では、渋滞長が逆に増加しており、立体交差化の早期工事着手が必要です。

5 鈴鹿亀山地域は産業集積地にあるものの、高速道路へのアクセスに時間を要しています。高速道路への所要時間を短縮し、定時性を確保する鈴鹿亀山道路の新規事業化に向けて、事業手法の検討の支援が必要です。

東西方向には名神高速道路や新名神高速道路、名阪国道がネットワーク化されていますが、それらを南北に結ぶ幹線道路が整備されていません。地域のさらなる発展のためには、名神名阪連絡道路の整備が必要であることから、早期実現のために調査の推進が必要です。

また、平成 30（2018）年 3 月の道路法改正により、平常時、災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、国土交通大臣が物流上重要な道路網を指定し、機能強化、重点支援を実施する「重要物流道路制度」が創設されました。これを受けて、物流上重要な役割を担う、鈴鹿亀山道路および名神名阪連絡道路を「重要物流道路」に指定するとともに、早期の整備が必要です。

6 海拔ゼロメートル地帯を流域とする木曾三川においては、南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率が 70～80%に引き上げられ、早急な堤防の耐震化が求められています。鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川や勢田川においては、平成 29（2017）年の台風第 21 号により、甚大な被害が発生し、氾濫危険水位を超過する洪水が発生しました。日本経済を支える石油化学コンビナート等の生産拠点が浸水により操業停止となれば、日本経済への影響は甚大であるため、流下能力確保のための治水対策や堤防耐震化などの推進が必要です。

7 上野遊水地、川上ダム、木津川・服部川・柘植川の河道掘削が完成することで、伊賀地域の治水安全度が向上するとともに、川上ダムにより伊賀地域の安定した水道水源確保が図られます。川上ダムは、令和元（2019）年 9 月から本体コンクリートの打設を予定しており、令和 4（2022）年度の完成に向け、着実な予算の確保が必要です。また、上野遊水地は平成 27（2015）年度に運用を開始していますが、さらなる治水安全度の向上のため、木津川・服部川・柘植川の直轄河川改修事業の推進が必要です。

名張市内では、平成 29（2017）年の台風第 21 号で道路冠水、床下浸水が発生したことから、名張川の直轄河川改修事業の推進が必要です。

8 名張市街地を走る国道 165 号や近鉄大阪線には、多数の土石流危険渓流があり土砂災害のリスクに晒されており、要配慮者利用施設等も保全対象となっています。当該地区において、懸念される土砂・流木災害、河川の氾濫に対するリスクの低減が図られるよう、木津川水系直轄砂防事業の推進が必要です。

9 七里御浜海岸は、昭和 30（1955）年代以降、高波などにより海岸侵食が進み、井田地区海岸では前浜がほとんど消失し、高潮被害が発生しています。高潮被害の防止とともに、人工リーフの整備および維持養浜を実施していますが、七里御浜海岸の侵食対策には、事業費が膨大な上、熊野川流域の総合的な土砂管理、河口閉塞対策、景観への配慮など高度な技術が必要です。

熊野川流域では、堆積土砂撤去等の治水対策や長期化する濁水の影響等が課題となっています。現在、「熊野川の総合的な治水対策協議会」を設置し、堆積土砂撤去、流域の崩壊地対策、利水ダムの施設改良や運用改善などを行っていますが、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」による直轄河川改修事業の推進、国によるマネジメント強化が不可欠です。

10 中勢地域の生活や産業の中心地である津松阪港海岸の背後地は、直轄海岸事業が着々と進むことにより地震・津波に対するリスク軽減が進んでいます。一方、台風の大規模化や南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されていることから、さらなる事業の推進が必要です。

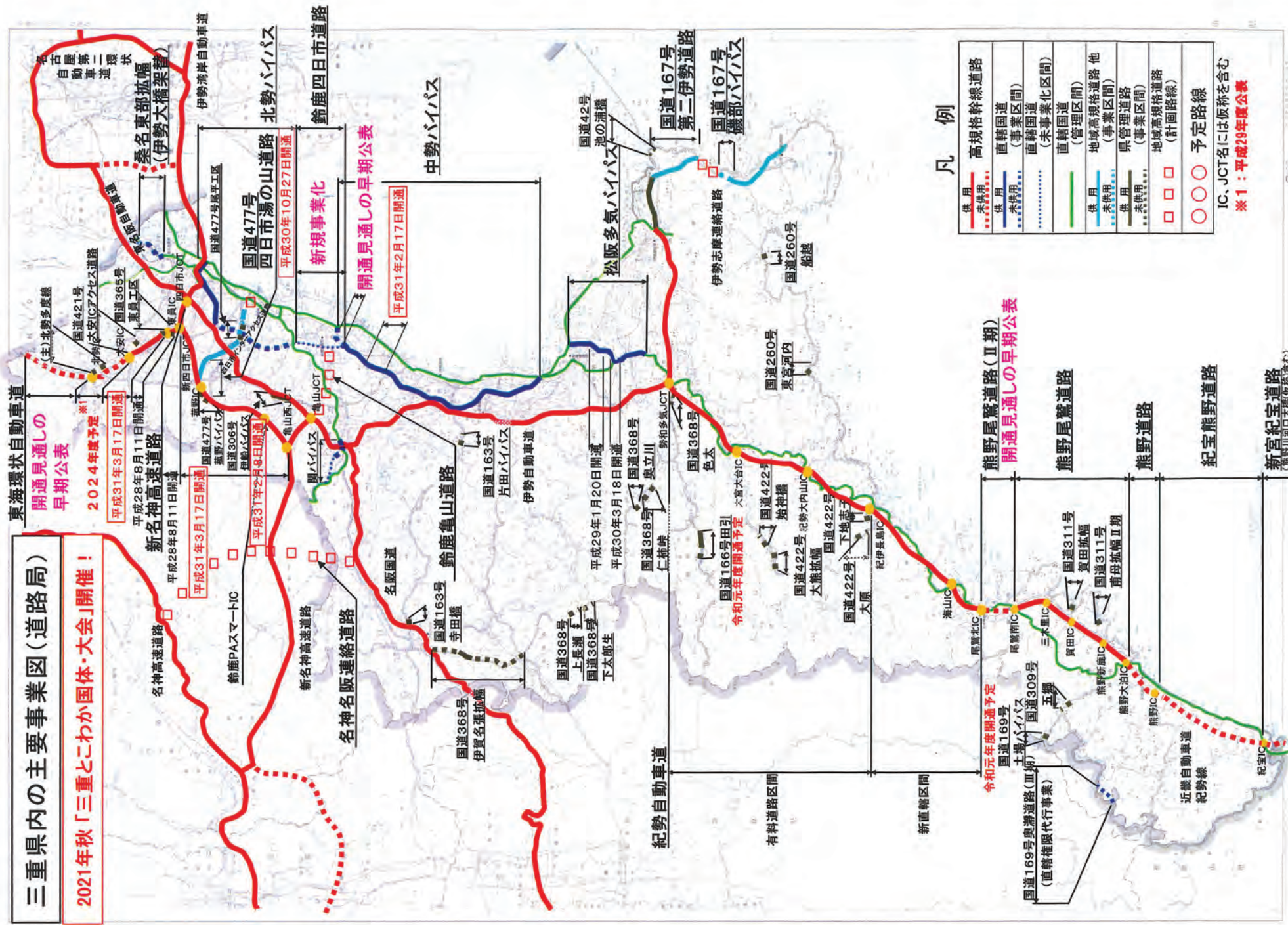
また、同海岸は、令和3（2021）年に開催される「三重とわか国体」のセーリング会場やビーチバレーボール会場として決定していることから、当大会の開催に間に合うよう、引き続き、直轄による会場周辺の堤防整備を進める必要があります。

11 国営木曾三川公園（桑名七里の渡し公園）は、平成 27（2015）年度に一部開園されましたが、木曾三川を軸とした交流と繁栄の歴史を紹介する場として、また地域活性化・交流促進のため、早期に全面開園することが必要です。

事務担当 県土整備部道路企画課、河川課、防災砂防課、港湾・海岸課、都市政策課 地域連携部水資源・地域プロジェクト課
関係法令等 国土交通幹線自動車道建設法、道路法、河川法、砂防法、海岸法、港湾法、都市公園法、水資源開発促進法、水資源機構法 等

三重県内の主要事業図(道路局)

2021年秋「三重とこわか国体・大会」開催!



凡例

供用	高規格幹線道路
未供用	直轄国道
未供用	直轄国道 (事業区間)
未供用	直轄国道 (事業区間)
未供用	直轄国道 (未事業化区間)
未供用	直轄国道 (管理区間)
未供用	直轄国道 (管理区間)
未供用	地域高規格道路 他
未供用	国道 (事業区間)
未供用	県管理道路 (事業区間)
未供用	地域高規格道路 (事業区間)
未供用	地域高規格道路 (計画路線)
未供用	予定路線

IC、JCT名には仮称を含む
 ※1：平成29年度公表

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

中京圏のものづくりを支える高規格幹線道路整備推進（東海環状自動車道）

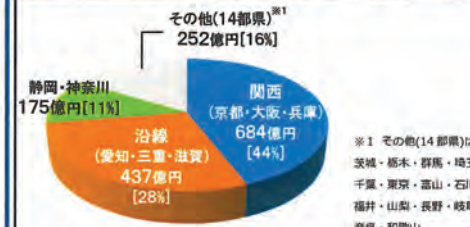
3大都市圏を結ぶ環状道路



日本の持続的成長と経済発展のために待ち望まれる全線開通

●新名神、東海環状等の開通による効果

年間生産額が約 1,550 億円増加！



新名神高速道路等開通による地域別年間生産増加額の予測

出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)「政策研究レポート」(2019年2月)

ものづくり地域である中京圏の道路整備は、首都圏から近畿圏の広域かつ中長期的な経済効果をもたらし、日本経済を牽引します！

●東海環状地域整備推進協議会シンポジウム

～生産性向上や地方創生の基盤となる東海環状～



2025年の大阪・関西万博の開催に先がけて関西に近い東海環状西回りの全線開通が必要

基調講演
中京大学経済学部
内田俊宏客員教授

H31.1.24に名古屋ミッドランドホールで開催



満席の会場(約400人)で高まる期待

絶大なストック効果を発現する東海環状等の中京圏の道路網の早期整備を

大安IC～北勢IC(仮)間の開通時期の前倒し

●燃料電池車向け主要部品の製造工場が立地！

○豊田合成(株)いなべ工場

- ・雇用人数 約100名
- ・生産品目 燃料電池車用 高圧水素タンク



2020年代初頭本格稼働予定！

2020年代初頭の本格稼働予定であり、大安IC～北勢IC間の開通時期の前倒しを強く期待しています。



企業の生産性向上に資する大安IC～北勢IC(仮)間の開通時期の前倒しを

中京圏の高速道路料金体系の見直し

H30.11.7中京圏小委員会での料金体系の議論開始

賢く使う取組事例

大垣市自動車部品工場～豊田市組立工場への輸送例



道路を賢く使うためには環状道路ネットワークの早期整備が必要

- ・東海環状など必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保が必要
- ・環状道路の迂回機能を促進し利用者が使いやすい合理的な料金体系の導入が必要

○自動車部品製造 A社

- ・ものづくりにおいて、効率的な輸送もさることながら、ジャストインタイム方式の生産体制には、定時性の確保が重要
- ・ドライバー不足が深刻であり、渋滞解消による物流効率化は欠かせない

効果

- ・製品の速達性・定時性が確保
- ・企業の生産性向上
- ・ドライバー不足に寄与

提言

- 1 東海環状自動車道大安IC～北勢IC(仮)間について、公表された供用見込みより一日も早い開通を図るよう、整備をさらに加速すること。
- 2 北勢IC(仮)～岐阜県境間の開通見通しの公表、早期全線開通に向け整備を推進すること。
- 3 中京圏の高速道路ネットワークを賢く使うとともに、必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保のため、早期に中京圏の道路料金の見直しを進めること。

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

平常時・災害時を問わない円滑な物流の確保、地域経済の活性化に資する道路整備（中勢バイパス、鈴鹿四日市道路）

地域経済・社会活動の発展に寄与



事例 物流の円滑化

～鈴鹿四日市道路の整備前後の比較～

【大手化学メーカーA社（鈴鹿市）】

- 搬出時間の変化 (事業場⇒四日市港)
- 国道23号の渋滞状況 (鈴鹿市内)



※H27 道路交通センサスを基に三重県算出（非混雑時を想定）

【サイエンスシティ立地企業S社（津市）】

- 搬出時間の変化 (営業所⇒四日市市内)
- 国道23号の渋滞状況 (四日市市内)



※H27 道路交通センサス、民間プローブデータを基に算出

農業生産資材の運送のため四日市方面への移動があります。渋滞の解消により輸送時間が短縮できると、社内作業時間を確保でき、生産性向上が期待されます。(S社ヒアリング)



地震発生時のルート確保



課題

四日市⇔鈴鹿間の南北主要幹線道路は国道23号のみ

鈴鹿四日市道路の整備

効果

中勢バイパスが国道1号に接続
⇒南北主要幹線道路のダブルネットワーク化による地域経済の活性化

提言

- 1 鈴鹿四日市道路を早期に新規事業化すること。
- 2 国道23号中勢バイパスの4工区開通見通しの早期公表、既開通区間の渋滞解消に向けた4車線化や立体化を推進すること。

【県土整備部】

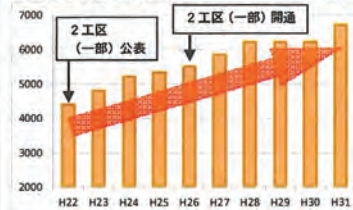
1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

整備推進が地域活性化に直結 国道1号北勢バイパス

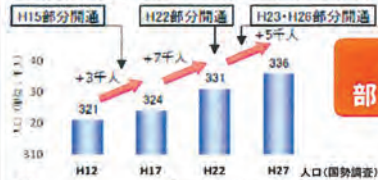
道路整備により促進された雇用創出

■開通見通し時期と半導体工場の従業員数の推移

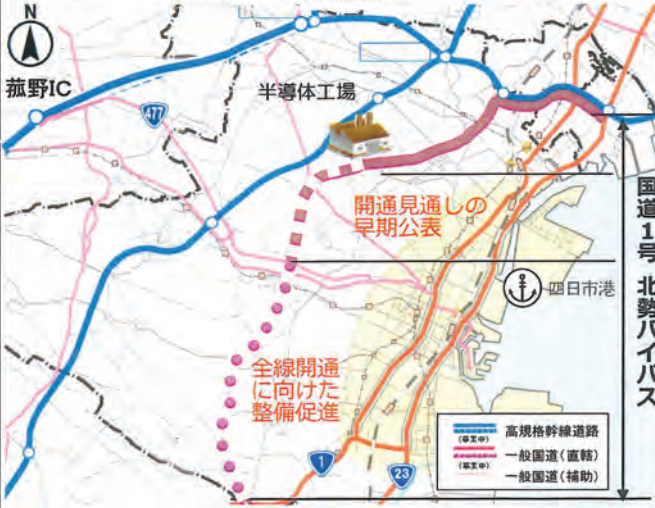


従業員数が
10年間で約1.5倍

■北勢バイパス整備と人口推移(四日市市、朝日町、川越町)



沿線の人口が
部分開通後1.5万人増加

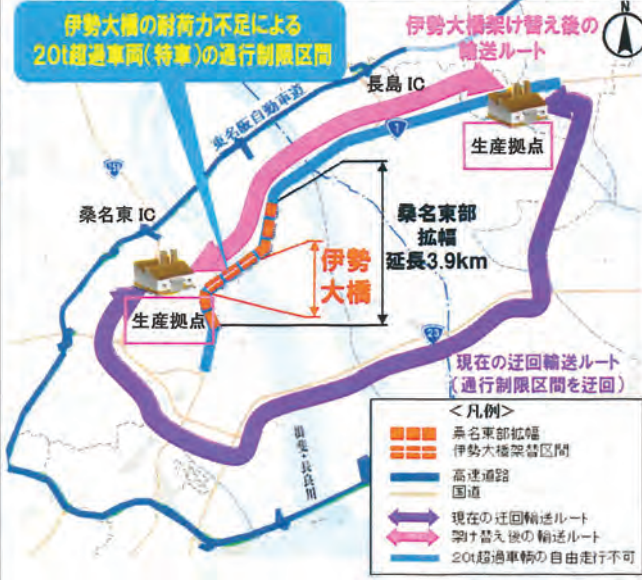


物流効率化・産業振興に大きく寄与する事業の推進 国道1号桑名東部拡幅(伊勢大橋架替)

重量制限解除で大幅な物流効率化を実現

伊勢大橋架替により、20t超過車両の制限が解除され、国際海上コンテナ(40ft背高)車両も通行可能に!

生産拠点間の輸送時間が短縮され大幅な物流の効率化が図られる

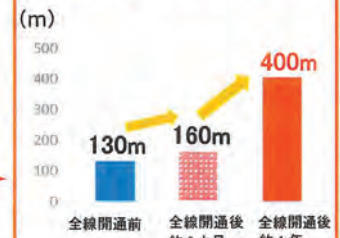


朝田町南交差点の立体交差化で企業の生産性向上 国道42号松阪多気バイパス

既開通区間の渋滞対策(立体交差化)

バイパス全線開通後、交通量の増加に伴い、朝田町南交差点のバイパス部の渋滞が悪化

渋滞長が約3倍に増加



立体交差化
早期工事着手を!



- 提言
- 1 国道1号北勢バイパスの国道477号バイパスまでの開通見通しの早期公表、全線開通に向けた整備を推進すること。
 - 2 国道1号桑名東部拡幅(伊勢大橋架替)の整備を推進すること。
 - 3 国道42号松阪多気バイパスの渋滞区間の立体交差化に早期工事着手すること。

【県土整備部】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

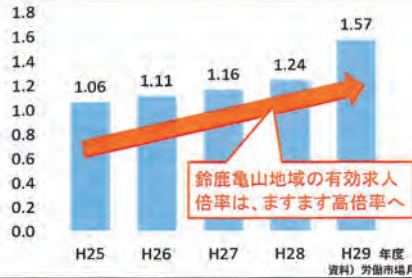
(財務省、国土交通省)

三重県のさらなる産業発展を牽引する物流道路としての機能を期待（鈴鹿亀山道路・名神名阪連絡道路）

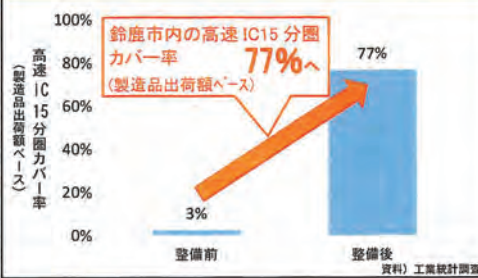
鈴鹿亀山道路

高速アクセス改善により労働生産性の向上に貢献

年々高まる地域の有効求人倍率



市内主力工場に整備効果が波及



鈴鹿亀山道路整備による高速道路IC15分圏域の拡大



2020年度の都市計画決定に向け 都市計画素案の住民説明会を実施



平成31年2月 住民説明会を開催

<住民説明会での期待の声>

- 早期の実現をお願いしたい。
- この道路は、地域の発展に不可欠です。

<企業集積地域内の運送会社の声>

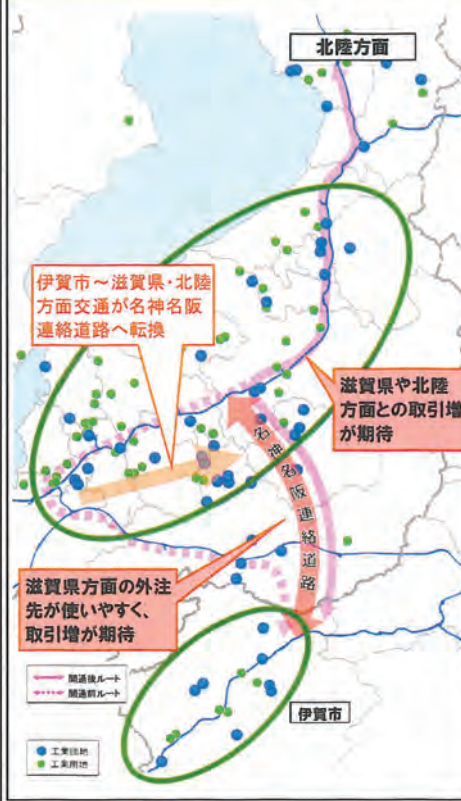
- 人手不足への対応等から、今後、フルトレーラーを増やしていきたいと考えています。
- しかし、鈴鹿 IC へのアクセス道路などでは、走行時に車線をはみ出さないか、ドライバーが走りづらい、怖いと感じています。
- 道路整備にあたっては、大型車の走行も念頭に整備して頂ければと思います。



名神名阪連絡道路

南北の広域ネットワーク構築により産業発展を支援

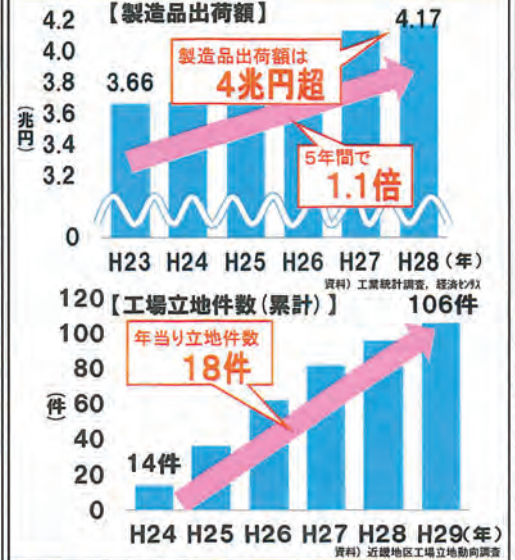
滋賀・北陸方面の工場との交流増加の期待



<伊賀市内の企業の声>

- 北陸方面にもお客さんはあるが、走行しやすい道路がなく、行きづらい状況です。
- 外注先も、行き来しやすい名阪国道沿いを中心で。
- 名神名阪連絡道路が整備されると、北陸方面の客先に行きやすくなったり、滋賀県の外注先が使いやすくなることを期待しています。

拡大し続ける沿線地域の製造業



名神名阪連絡道路シンポジウム(H30.7) 一般来場者 約750名が出席



二階 俊博氏 (衆議院議員 自民党幹事長)

- 名神名阪連絡道路は、地域活性化や国土強靱化をもたらす。
- シンポジウムが、本道路の前進に向けた大きな一歩となるよう祈念する。



坂本 克己氏 (全日本トラック協会会長)

- 物流上、重要な道路が「重要物流道路」として指定されることとなった。
- 製造や販売の前に物流あり。

提言

- 1 鈴鹿亀山道路の都市計画手続きに向けて支援すること。
- 2 名神名阪連絡道路について、国による調査を推進し、早期実現を図ること。
- 3 鈴鹿亀山道路および名神名阪連絡道路を「重要物流道路」として指定すること。

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

木曾三川

- 国内最大の海拔ゼロメートル地帯
- 全国第2位の観光施設や生産拠点が立地

流域の特性

現在の主な取組

- 海拔ゼロメートル地帯等における堤防耐震対策
- 津波対策区間進捗率 約40%

課題

- 南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70~80%!
- 堤防が沈下すると、津波浸水被害は広範囲かつ長時間に及ぶ
⇒日本経済への影響は甚大!

早期課題解決に向けて

切迫する南海トラフ地震に備え、堤防耐震対策の更なる推進が必要!

鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川

流域の特性

- 道路(国道23号) 鉄道(近鉄・JR)等の幹線交通網
- 石油コンビナート等の生産拠点や主要な市街地を形成
- 人口 約113万人(県内人口の63%)
- 製造品出荷額 約6.4兆円(県内製造品出荷額の64%)

現在の主な取組

- 水害の頻発・激甚化に対応する治水対策(築堤整備、河道掘削)
- 河川堤防整備状況 約60~65%

課題

いつ洪水が発生してもおかしくない!

- 洪水の頻発・激甚化!
- 洪水・津波等により堤防が決壊した場合、生産拠点の浸水や、交通の遮断により、**日本経済への影響は甚大!**

早期課題解決に向けて

水害の頻発・激甚化を踏まえ、治水対策(河道掘削等)・堤防耐震対策の更なる推進が必要!

勢田川

平成29年台風第21号

- 被害状況(伊勢市)
- 死者 1名
- 床上浸水 409棟
- 床下浸水 670棟

現在の主な取組

- 勢田川流域等浸水対策協議会設立(H30.1.26)
- 勢田川流域等浸水対策実行計画策定(H30.6.19)

国・県・伊勢市が連携して河川整備や雨水排水対策を実施

課題

- 平成29年10月(台風第21号)洪水をふまえ、**早期の被害軽減対策が必要!**

早期課題解決に向けて

再度災害防止のため、治水対策(ポンプ増強等)の更なる推進が必要!

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、直轄河川改修事業の確実な実施を!

堤言 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、木曾三川および鈴鹿川・雲出川・櫛田川・宮川・勢田川の直轄河川改修事業を確実に実施すること。

【県土整備部】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

川上ダム・木津川直轄河川事業

伊賀地域は、近畿圏、中部圏の2大都市圏の中間に位置し、企業立地に好条件！



地域の現状

■低い治水安全度

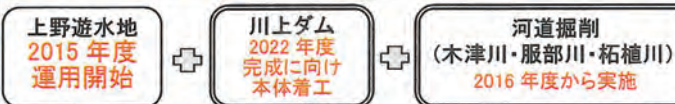
・数年に一度は浸水

最近の浸水	事象	浸水面積	浸水戸数
H21.10	台風18号	5.3ha	32戸
H24.9	台風17号	0.07ha	38戸
H25.9	台風18号	28ha	150戸

■不安定な水道水源

・水源の一部は、川上ダム建設を前提とした暫定水利権
・既存水道施設も老朽化

3点セットで「治水安全度の向上」と「安定的な水源の確保」を実現！



●治水安全度が向上！

戦後最大規模の洪水 (S28 台風第13号) による被害が**ゼロ**に！
浸水戸数 844戸 ⇒ 0戸 浸水面積 526ha ⇒ 0ha

●川上ダムにより安定的な水源の確保！

川上ダムは順調に進捗中

事業工程

	2017	'18	'19	'20	'21	'22
ダム本体工事						
試験湛水						

2019年 3月 基礎掘削完了

2019年 9月 本体コンクリート打設予定

基礎掘削完了

仮設備ヤード施工状況



2022年度事業完了に向けた必要な予算確保を！
一日も早い完成のため進捗UP！

河道掘削・引堤の推進

●河道掘削



●堤防整備(引堤)



更なる治水安全度向上のため、
木津川・服部川・柘植川の河道掘削及び、
服部川(三田地区)における引堤の推進を！

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、直轄河川改修事業の確実な実施を！

名張川直轄河川事業

名張かわまちづくり一体型浸水対策事業(I期)の推進

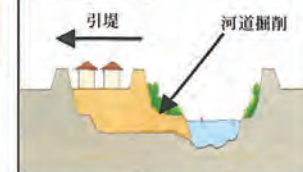


現在の主な取組

●堤防整備(引堤)

●河道掘削、樹木伐採

■引堤イメージ図



近年の洪水(平成30年台風第24号)

・河道掘削・樹木伐採の実施により、名張水位観測所において、約0.4mの水位低減効果を発揮し、避難判断水位以下で流下！
・上流ダム群(青蓮寺ダム・室生ダム・比奈知ダム)が本来有している洪水調節機能を発揮させるためには、名張川の事業推進が必要！

更なる治水安全度向上のため、名張川(黒田地区)における引堤・河道掘削の推進を！

堤言

- 1 川上ダムについては、令和4(2022)年度の事業完了に向け、必要な予算を確保するとともに、一日も早く完成すること。
- 2 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、名張川および木津川・服部川・柘植川の直轄河川改修事業を確実に実施すること。

【県土整備部】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

木津川水系直轄砂防事業の推進



木津川

木津川水系直轄砂防事業

砂防整備計画
平成 28(2016)年～
令和 7(2025)年
約 20 渓流を整備
(奈良・三重 両県分)

- 人口8万人の名張市街地
- 大阪・奈良・三重を東西に結ぶ主要な交通基盤
国道 165 号【交通量 約2万台/日】
近鉄大阪線【名張駅乗降人員 約1万2千人/日】
が土砂災害と氾濫から守られ、
住民、主要な交通基盤と利用者の安全が確保されます。

実施箇所図 (名張市防災マップ)

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策(中小河川緊急治水対策プロジェクト)

【土砂・流木対策】

谷出3、谷出4
透過型砂防堰堤を整備



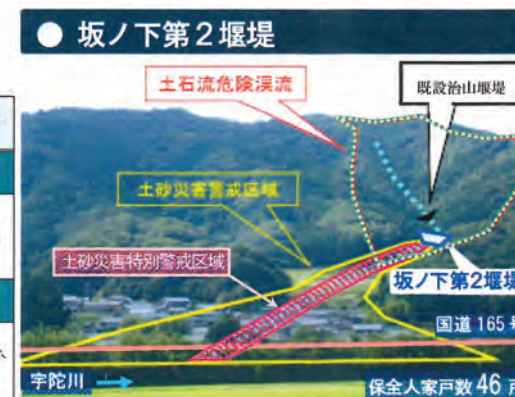
さらなる事業の推進を！

土石流危険渓流が宇陀川沿いに連担しており、要配慮者利用施設、公共施設、国道などが保全されます！



事業実施概要

	谷出3	谷出4	坂ノ下2
令和元(2019)年度	堰堤工	用地買収、工事用道路	用地買収
令和2(2020)年度	—	堰堤工	工事用道路、堰堤工



提言 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、三重県内における木津川水系直轄砂防事業をより一層推進すること。

【県土整備部】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

七里御浜海岸



七里御浜海岸の課題



平成の30年間で7度にわたり被災 (被災リスクの高い海岸)

被災年	被災原因	海岸名	復旧内容
平成6年	台風第26号	井田地区海岸	人工リーフ 3基(新設)
平成9年	台風第7号 台風第9号	井田地区海岸	堤防工 552m 根柢工 168m 人工リーフ 4基(新設)
平成16年	台風第16号	井田地区海岸 有馬地区海岸	堤防工 300m 堤防工 52m 排水施設 1式
平成23年	台風第12号	阿田和地区海岸 井田地区海岸	人工リーフ 2基 堤防工 28m 堤防工 257m
平成25年	台風第18号	井田地区海岸	人工リーフ 1基
平成29年	台風第21号	井田地区海岸	堤防工 40m

熊野川

流域の課題

◎長期化する濁水の軽減

◎堆積土砂撤去等の治水対策



現在の取組

熊野川の総合的な治水対策協議会

国・三重県・奈良県・和歌山県・沿川市町村・ダム管理者が連携し、治水対策や濁水対策を推進

河道掘削

- 平成29年度～
国：「緊急対策特定区間」で実施
県：交付金事業で実施
- 平成30年度～
国・県：「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」で実施

県：熊野市和気地区の河道掘削の完了予定を1年前倒し！
(2021年度→2020年度)

成果

- 平成30年台風第24号では、成川地点で約2.5mの水位低減効果を確認(河道掘削により約1.4m、ダムの事前放流により、約1.1m低減)
- 濁水対策の取組である風屋ダム表面取水設備改造工事の完了

早期課題解決に向けて

- 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、直轄河川改修事業の確実な実施を！
- 協議会でとりまとめた濁水対策の完了目標は、2021年度末！対策の確実な実施に向け、国によるマネジメントの強化を！

海浜侵食状況 (井田地区海岸)



熊野川直轄河川改修事業による掘削土砂を大規模に投入することにより、海浜が安定しています。

施設整備には膨大な事業費が必要です。

対策が複数県に跨ります。

- 熊野川流域(三重県・奈良県・和歌山県)から発生する、土砂の管理が必要
- 熊野川の複数の管理者、関係機関の調整が必要

直轄事業化

高度な技術力が必要です。

- 国立公園、世界遺産に指定され、景観に配慮した対策
- 太平洋の高波が来襲する、過酷な施工条件
- 熊野川流域の土砂管理や、砂利浜の安定を図るための高度な解析
- 河口閉塞の対策

提言

- 1 七里御浜海岸における侵食対策を直轄事業化すること。
- 2 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」により、熊野川直轄河川改修事業を確実に実施すること。
- 3 熊野川の総合的な治水対策協議会でとりまとめた取組を確実に実施するため、国によるマネジメントを強化すること。

【県土整備部】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

津松阪港 直轄海岸保全施設整備事業

水管理・国土保全局、水産庁所管海岸の整備もさらに推進します。
津北部地域海岸の整備を県も推進しています。

- ・水産庁所管 上野・白塚海岸
令和元年度～海岸保全施設整備関連事業
(個別補助事業化により整備を加速)
- ・水産庁所管 白塚漁港海岸
海岸保全施設整備事業 令和元年度工事着手

津松阪港海岸	栗真工区 栗真町屋工区 阿漕浦・御殿場工区
全体事業費	135.0 億円
整備期間	2011年～2023年
整備延長	6.7 km

三重とこわか国体 2021

津松阪港海岸はセーリングとビーチバレーボールの開催会場となっています。



海岸堤防の耐震化により背後地の安全・安心が向上
様々なストック効果が発現しています。

祝!! フラップゲート式陸開 完成!
平成31年3月9日

国体会場周辺の整備状況



- ①株式会社百五銀行
新本館ビルの建設 (H27)
・津市避難ビルとして活用
・延べ床面積36千㎡/2棟
- ②三重大学附属病院
新外来病棟を新設 (H27)
・最新のCT装置などを導入
・延べ床面積28千㎡
- ③倉敷紡績 (株) 三重工場
建物・設備の拡大 (H24)
・生産・開発体制を強化
・延べ床面積約15千㎡



完成を記念し、国会議員、津市長等を招いた報告会を開催



日本最長のフラップゲート式陸開
セーリング会場付近



ビーチバレーボール会場付近

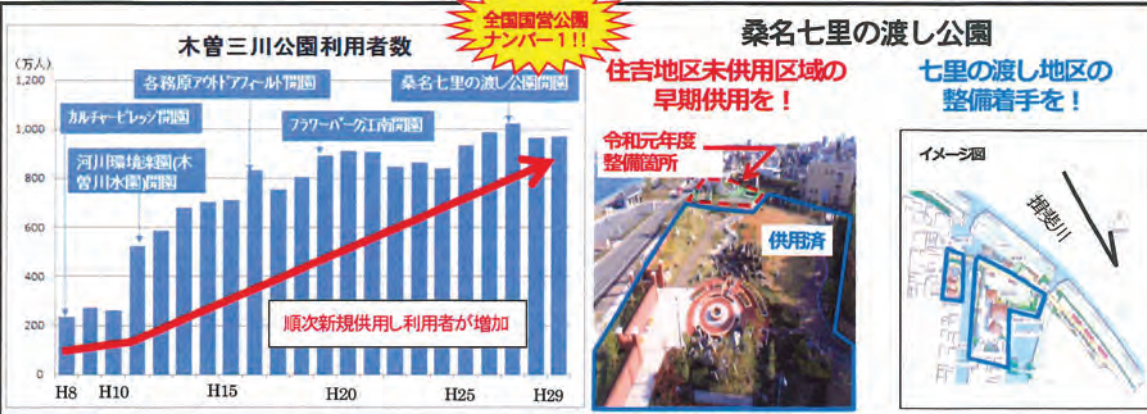
提言 令和3(2021)年開催「三重とこわか国体」会場周辺を含む津松阪港直轄海岸事業を強力に推進すること。

【県土整備部】

1 県民の安全・安心、地域の経済成長・魅力向上につながる社会資本整備の推進

(財務省、国土交通省)

国営木曾三川公園（桑名七里の渡し公園）の整備推進



地域の魅力と多様な体験型コンテンツ

ご当地人気イベント

桑名水郷花火大会 桑名城お堀めぐり

ご当地人気グルメ

焼きはまぐり 桑名カレー

隣接する住吉浦休憩施設 レンタサイクルの活用

ボランティアガイドと巡る歴史散策

- ・桑名七里の渡し公園
- ・六華苑
- ・諸戸氏庭園など

桑名市物産観光案内所で受付

鑄物工場見学、鑄造体験

- ・市内には約30の鑄物工場があります

交通インフラ整備により飛躍的にアクセスが向上

東海環状自動車道

2019年3月17日開通!

大安IC ~ 東員IC

新名神高速道路

2019年3月17日開通!

龜山西JCT ~ 新四日市JCT

高速道路の整備により、遠方からの利用者増加の可能性! 更なる地域の活性が期待できます!

桑名駅周辺地区整備事業

桑名駅および駅周辺がより便利に生まれ変わります!

リニア新幹線が名古屋へ

2027年 東京 ~ 名古屋間開通!

国道1号桑名東部拡幅事業

名古屋 ~ 桑名間の移動時間短縮!

四日市港の外国客船ツアー

北勢地域への外国人観光客が増えています!

名古屋から桑名へ

提言 国営木曾三川公園(桑名七里の渡し公園)を早期に全面開園すること。

【県土整備部】